



子どもにのぞむ前に

三つの自立

親がわが子に願うのは、①いつも元気な子。②友達と仲良く遊べる子。③しっかり勉強のできる子の三つと言われます。これは、体力・社会的能力・基礎的学力です。幼い時は、何もかも親に任せてもらっていた子も、小学校へ入学すると同時に、少しずつ自立への道を歩んでいきます。

自立には、三つの指標があります。一つは、「身辺的自立」です。起床、ねまきたたみ、歯磨き、洗顔、食事、排便など、親からやいやい言われなくてもやっていける子は身辺的自立がかなりできる子です。

自立の第二の指標は、「精神的自立」です。親にベタベタ甘えたり、すねたり、まつわりついたりせず、自分なりに生き方を模索し自主的になってくる時期があります。親はなれの現象です。

第三は、「経済的自立」です。お金の負担を親にかけなくなった時、ようやく大人になったと言えます。

身辺的自立が基本

精神的・経済的自立のできた一人前の大人になる上で、身辺的自立は欠くことのできないもつとも基本的な教育的テーマです。この第一の自立において、今、親の役割が大きく問われています。それは、家庭教育が他のものでおきかえられないからです。朝の起床から夜寝るまでの時間は、子どもの自立を促す家庭教育を実践する上で、またとない好機です。しっかりと豊かに育てられた子は、後々まで学力を含め、心と体と頭がすくすく伸びていく可能性に富んだ子になります。

さて、身辺的自立を促すには次の二つの注意点があります。

- 朝の洗顔・歯磨き
 - 風呂に入り、体を洗う
 - 爪を定期的に切る
- からだをきれいにし、清潔感を失わないことです。これは、学年が上がるにつれて「あの子、くさい」と仲間外れやいじめ、無視の要因にもなりかねません。次に

子どもをその気にさせるには

- 自分のことは自分でする
- ひとりで起きる
- 持ち物の準備をする
- 一家の一員として仕事をする
- ひとりで着替えられる
- 自分の意志を伝えられる

子どもにのぞむ前に親としてやるべきこと

- 自己主張能力がある
 - 社交性がある
 - 話題が豊富である
- 妙に大人びておしゃまで生意気、人の言いなりになる、自己中心的粗暴・暴言をばく、過保護に育った甘たれ、周囲のノリについていけない子、不潔な子、こういうタイプの子どもは、自分だけの世界に閉じこもり、周囲になじめません。でも、これは、親が作り出したと考えてよいでしょう。

一生懸命なお母さんほど、小言が多くなりがちです。小言ばかりだと無気力で、無関心な子になってしまします。自分から進んで実行させるには、その気にさせることが一番です。具体的に実行する段階では、親が実演し、手とり足とり教えていきます。ひとりでもできるようにするまでには、根気よく教えます。親の頑張りが子どもへの励みになるのです。できたらほめてあげましょう。自分でできた達成感・充足感が大きな自信になるのです。また、成功するまでに経験した失敗で、少々のものではへこたれない、たくましい心を育て、がまん強さを自然に身に付けさせます。また、精神的自立を促すには人付き合いのルールを学ぶことです。

友人を通して知人が一人増え、二人増え、広がった仲間から学ぶことは山ほどあります。子ども自身が積極的に学び取り、友達と遊ぶのが楽しいと思うことが大切です。そこでの失敗やトラブルが子どもには必要です。自分で体験して学んでいくほかないのです。親は、その機会をふんだんに与えてあげる環境づくりを心がけることが大事です。小学校へ入学すると勉強に目が向き、それにとらわれやすくなりますが、まずは、子どもの基本的な自立を考えたいものです。親として、子どもにのぞむ前に親として子どもに教えるべき事をしているかどうか、もう一度考えて見ましょう。